

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について(概要)

佐久市教育委員会

【児童生徒質問調査から】

- 「自分にはよいところがある」といった自己有用感が年々高くなっている。「人の役に立つ人間になりたい」は小中学生共に97%、向社会性が高い。
 - 「国語・算数数学・理科が好き」や「学習したことは将来役に立つと思う」といった「学習に関する意識」は全項目で全国より高い。
 - 小中学校ともに「読書が好き」は全国を大きく上回る。
- △佐久市教育大綱基本理念「自ら考え主体的に判断し行動する」に関わる主体的対話的で深い学びの項目は、小中学生共に前年より停滞気味である。

【学校調査から】

- 「熱意をもち落ち着いて学んでいる」学習に関する意識は全中学で100%、小学校は落ち着きに学級差がある。
 - 不登校生への授業配信や特別支援教育でのタブレット使用が進んでいる。
 - 総合的な学習の時間での探究の過程を意識した指導が中学校で大きく伸びて(+28.5ポイント)きている。
- △主体的・対話的で深い学びに関わる指導や、一人一人に応じた指導、つまづく子への対応が全国を下回った。教育基本計画「教える視点から学ぶ視点への転換」をより意識した授業づくりが求められる。

【教科に関する調査】

- (1) 国語 : 小中学校ともに全国とほぼ同じ状況。
- (2) 算数数学 : 無答率の割合が増加傾向にあり、分かる授業を目指したい。「思考・判断・表現」に課題が見られる。「考える授業」への転換が求められる。
- (3) 理科 : 「理科好き」な児童生徒が多く、高正答率の問題も見られる。できる問題とできない問題の差が大きい。

「学びの自走者」の育成を一層重視 ～「探究的な学び」を通して～

【学校として】

- ・自校での分析と情報共有、取組の軸の明確化
- ・授業改善の柱の共有と日常的な実践化
- ・他校に学び合う機会を生かす(中学校区公開)(アウトプットデイ)

1 「探究的な学び」の推進

- 総合的な学習の時間・生活科
 - ・「自ら課題を据え、学び深め、自ら解決していく」土台を育成する
 - ・アウトプットとフィードバックを通じた「深い学び」の実現
- 教科学習
 - ・深い教材研究と自律的な学びを生み出す「問い」の設定
 - ・「書くこと」を重視した振り返り

2 自己有用感・向社会性を伸ばす

- ちがいに学び合う学級集団づくり
- 個々に寄り添う指導支援の充実

【市教委として】

- ・学びの自走者となる教師を育成する研修(さくコミ)
- ・算数数学を中心とした伴奏支援
- ・校長会・研究主任会で、各校の授業改善の核が据わるような発信の継続